

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年3月18日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691600110
法人名	有限会社 やわら
事業所名	グループホーム かな 宝棟
所在地	鹿児島県曾於市末吉町南之郷77-1 (電話) 0986-76-3723
自己評価作成日	平成31年2月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年3月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした敷地内からは田畑や山々を望むことができ、ゆっくりとした時間の中で過ごすことができています。花見やちまき作り、餅つきなど季節の行事を大事に取り組んでいます。又、活動の一つとして大正琴に取り組んでいます。毎週、先生が来られ一緒に歌を歌い楽しい時間を過ごされています。医療面においては、訪問看護や協力医療機関との連携を密に図っており、ホームでの看取りも積極的に取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から少し離れた宮崎県堺の農村地帯に建てられたホームで、近くには市森林組合やガソリンスタンド、個人住宅等が有り、自然豊かで四季を感じながら平穏に暮らせる環境である。敷地は広く、東屋も設置されており、利用者は園庭で散歩や他利用者との談笑を楽しんでいる。

管理者及び職員は、地域密着型サービス事業所としての理念に沿って、利用者一人一人の思いや習慣等を大切に、その人らしい生きがいのある自由な暮らしの支援に取り組んでいる。開設以来、地域との関わりを大切に地域活動に参加し、ホームの敬老会には地域住民の参加が得られるなど交流を図っている。日頃の散歩や買い物、通院時に地域の人との会話を楽しみ、踊りや楽器演奏のボランティアや施設見学、友人知人の来訪等を積極的に受け入れ、農産物を頂くなど円滑に交流しており、利用者の楽しみとなっている。

代表者及び管理者は、日頃からコミュニケーションに努め信頼と協力体制の充実を図り、意見や要望等を気軽に述べ合える関係を構築している。出された意見等は全員で協議して業務やケアの改善に努めている。日頃のケアに対する助言や職員のスキルアップにも熱心に取り組んでおり、施設内研修を計画的に実施し外部研修にも可能な限り参加している。職員の資格取得に対してもバックアップに努める等、サービスの向上や働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員会議や掲示物を通じて共有し実践に繋げている。	理念を、目に付きやすいホール横の事務室に掲示し、また、リーフレット等にも記載しており、職員会議や申し送りや日頃のケアの中で振り返りや意見交換を行って、意義の共有と理念に沿った支援の実践に日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議での情報交換や大正琴などで交流を図っているが日常的な交流は希薄なので今後努力していきたい。	開設以来、地域との交流に努めているが、利用者の重度化した現在は全員での外出は難しくなっている。利用者が地域に思いを馳せ、また、関わりながら生活できるように地域の情報把握に努め、清掃活動等に可能な限り参加している。敬老会には、家族や地域住民の参加があり、日頃の散歩や買い物時には地域の人々との会話を楽しみ、家族や友人の来訪、ボランティア等を積極的に受け入れ、農産物を頂くなどの交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議を通じて、認知症の理解や支援の方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告を行い、家族の要望や行政、地域からの声を周知し反映している。	会議は家族代表、民生委員、市職員が参加して定期的開催している。ホームの現況や行事、ヒヤリハット等を報告し、委員からは利用者のケアや高齢者福祉に関する意見や情報が出されて熱心に意見交換する等、有意義な会議となっており、運営やサービスの改善に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に必要な相談を電話や窓口に出向く等して連携を図っている	市担当職員には、運営推進会議に出席してもらいホームの現状の理解を得ている。介護保険更新や各種報告書等の提出、ホームの運営やケアに関わる相談や協議を日頃から行って、助言・指導を頂くなど協力関係を築いている。市主催の会合や研修会に出席し、サロンの運営にも協力して情報や意見の交換に努め、サービスの向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を年2回設けているほか、身体拘束委員会を3ヵ月に1回実施して身体拘束廃止について話し合いを行い会議等で周知している。	身体拘束に関する研修を計画的に実施し、身体拘束委員会も開催して共通の認識を図っている。利用者の尊厳やプライバシーを大切に言葉づかいやケアの実践に日々努めており、不適切な言動に対しては申し送り時やその場で指摘し合い、また、職員会議等で意見交換して改善に努めている。昼間は施錠せず、対話や散歩等で安定を図るなど、拘束のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を年2回設けて学ぶ機会を設けている。また外部研修にも積極的に参加をし学ぶ機会を設けたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会がないが今後内部研修や外部研修に参加し話し合いの場を設けていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の面談にて特に料金については詳しく説明している。家族の意向や不安な事など出来るだけ多くの意見を聞き不安解消に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際は、積極的に声をかけるように心がけている。9月に家族会、敬老会を実施し意見を聞く機会を設けている。利用者の意見は、日常会話の中で得ている。	利用者の意見や要望は、ケアの中での会話や表情、仕草、独自のサイン等から汲み取るように努めている。家族の来訪時には、利用者の近況を伝えると共に気軽に要望等を出して貰い、また、家族会や運営推進会議、ケアプラン見直し時、意見箱等でも把握して、サービスの改善に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は職員会議で拾い上げ代表に伝えている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションに努め、日常の業務の中や申し送り、職員会議、個人面談等で業務に関する意見や個人的事情を把握し、業務改善やサービス向上に繋げている。勤務シフトや外部研修の出席には可能な限り職員の要望を反映させ、スキルアップや資格取得に対しても積極的にバックアップする等、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の実績をみて給与等に反映するように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が仕事に意欲が持てるようにコミュニケーションを図りながら個々にあった研修の参加の支援を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市主催の会に参加して、同業者との交流や意見交換を行いサービスの質の向上に努めたい</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に面会に出向き、本人の状態や本人の思いを確認するようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>不安や要望、思いを傾聴し関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族、本人を取り巻く関係者から情報収集を行い支援方法など検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>馴染みの関係を築き良き理解者になれるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出の際の支援や面会の際にはコミュニケーションに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、居室等でゆっくりと時間が過ごせるように配慮している。	利用者の入所前の環境や生活状況等を把握し、馴染みの人や場の情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり過ごせるようお茶等に配慮し、電話や手紙の取り次ぎに努め、本人の希望に沿って墓参や買い物、美容院での整髪等を家族と協力して支援している。遠方の家族にも広報紙「グループホームかんな」等で利用者の近況を伝えるなど、馴染みの人や場との関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓やソファの配置には特に注意を払い利用者同士がトラブル等起きぬよう、媒介して支え合える関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も遠慮なく相談して頂くよう常々声掛けを行うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で汲み取るように努めている。把握に苦慮する方はカンファレンス等で検討を実施している。	利用者の思いや意向を日頃の支援の中で把握に努め、申し送りや職員会議、カンファレンス等で共有して、利用者主体の最善のケアになるよう取り組んでいる。その人らしい生きがいのある日々となるように、外出や趣味（編み物、ぬり絵、計算ドリル等）の取り組み、余暇時間の過ごし方は、利用者の心身の状況に配慮しながら個別の支援にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や他サービス機関の関係者、馴染みの方々より情報収集を行い生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康管理は勿論の事、言動等細かい部分にも注意するように努めて異変に気づきやすくしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスは月1回行い、プラン内容の評価及び課題を検討、話し合っている。カンファレンスで出た内容はプランに反映するように努めている。	利用者及び家族の想いを汲みとり、主治医や訪問看護の意見等も把握して、モニタリングやカンファレンス時の意見を基に具体的な介護計画を作成している。ケアの状況は「バイタルチェック表」や「業務日誌」等で共有し、本人主体のケアの実践に努めている。定期的な見直しに加え、心身の変化に対しては計画の修正等を行って、実状に即した支援に取り組んでいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の状態が一目で分かるように個別記録を行っている。特に重要な情報は申し送る欄を設け情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況変化等に柔軟に対応できるように相談しやすい環境作りに努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限りの地域資源把握に努め、本人らしい暮らしができるように努める。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談の際に確認を行う等して、本人の病状に応じた医療が受けられるよう支援している。	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受診を支援しているが、入居中の利用者の殆んどが協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療や訪問看護が実施され、専門医での受診も家族と協力して同行するなど、適切な受診に取り組んでいる。健康管理が徹底され医療連携体制も構築されて、利用者、家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師の定期訪問に加え、状態変化時は随時相談行い、速やかに受診できるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は、定期的に面会を行ない励まし等の支援や情報交換等に努めている。GHでできる治療の場合は訪問看護師と連携を図りながら安心して治療できるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に事前説明を行うが、終末期の段階と判断された場合は、家族の意向を随時確認しながら医療と連携している。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、「重度化した場合の対応に係る指針」を整備し、入所時に本人や家族に説明して理解を得ている。利用者が重度化した時点で、主治医から病状が説明され、職員や関係者、家族は十分な話し合いを繰り返して、可能な限り希望に添った支援に取り組んでおり、これまで十数件の看取りを実施している。看取り後は振り返りや意見交換を実施して、スキルアップや不安感の軽減を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時、事故発生への対応をその都度行っているが、今後外部からの応援を頂きながら実践力を身につけたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年間計画の中で昼夜想定 of 避難訓練を消防協力のもと実施している。運営推進会議にて地域との協力体制に努めている。</p>	<p>夜間想定を含む災害発生時の訓練を消防署や地域住民も参加して年2回実施している。職員及び地域住民への通報も組み入れた自動火災報知機やスプリンクラーが設置され、災害発生時の食糧品、飲料水を備蓄し、懐中電灯やラジオ等も整備されている。各居室入口に避難確認プレートを設置し、日頃から避難経路の確認や報道による災害事例を基に意見交換するなど、防災に対する共通認識に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心に配慮。排泄の失敗や食事の食べこぼしの際の声掛けに注意を払っている。	人格の尊重やプライバシーの確保、個人情報保護については、計画的に研修や事例検討を実施して周知を図り適切な支援の実践に取り組んでいる。利用者毎の習慣や思いを大切に、尊厳を損ねる言葉や対応を行わないように職員間で確認し合い、個別書類の取扱いにも留意しており、居室やトイレ、浴室等はプライバシーが確保された構造になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境や表情、声掛けを行いながら希望を表して頂いたり自己決定できるような方法を見つけたり努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態に応じて暮らして頂けるように努力している。無理強いせず、本人のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外部から散髪依頼。外出時など身だしなみに気配りしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ等出来る作業を一緒に行っている。	利用者の嗜好や摂取制限、形態等を把握し、栄養バランスにも配慮して調理している。旬の野菜で季節感のある食事や、行事食、代替品の提供、手作りのおやつ、家族との会食など、食事が楽しみなものとなるよう工夫しており、職員も一緒に歓談しながら和やかに食事している。利用者毎に食事や水分の摂取量を把握し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取には特に注意を行っており、飲まれない方には甘味をつけたり嗜好品などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日義歯を消毒したり、うがい が難しい利用者様には口腔用シートを使用し口腔内の衛生管理に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせたオムツの使用やパットを検討している。定期的に誘導や声かけを行い失敗に繋がらないようにしている。	利用者毎の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。食事や水分の摂取状況を把握し、ヤクルトやオリゴ糖の摂取など工夫して便秘の予防にも取り組んでいる。支援に際しては羞恥心やプライバシーに配慮し、利用者毎に介護用品の工夫や支援方法を介護計画に反映させて改善に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に心掛け、便秘傾向の方にはオリゴ糖などで工夫してなるべく自然排便に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	現在1日おきの入浴であるが、本人の要望や皮膚状態によっては毎日入浴の支援を行っている。	隔日の入浴を基本としているが、排せつの失敗等には即時に、清拭や入浴で清潔を保持し、予定外の入浴希望にも柔軟に対応している。個浴で利用者の好みの温度や時間、入浴剤に配慮し、ゆっくりと楽しめるよう支援しており、入浴後は水分の補給や、皮膚疾患の手当も行なっている。入浴を渋る利用者には無理強いしないで、時間の変更や声掛け等を工夫して、本人の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の調整や空調、明かり等環境の設備や入眠前の声掛けに工夫を行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は全て職員が行っており、効能や副作用を理解し変化時は速やかに医療機関へ相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯畳、新聞折りなど本人の力量に合わせ張り合いが持てるようにしている。要望があれば買い物など一緒に同行している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時は随時対応している。その他外出などは主に家族協力にて実施されている。	利用者の重度化に伴い、全員での遠方の外出は難しくなっているが、外出への意向を日頃の関わりの中で把握し、天候や健康状態に配慮しながら散歩や買い物、一時帰宅、墓参、美容室等への外出を、家族と協力して取り組んでいる。また、初詣やドライブによる季節の花見も計画する等、工夫して利用者の気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持、自己管理している方もいる。外出の楽しみが継続できるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望により電話の支援を随時行っている。家族からの郵便物など届いた際は代読に努めている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>四季折々の飾りつけや絵の得意な職員が似顔絵を書いたりして掲示している。音や明るさなどに配慮して居心地よく過ごせる空間に努めている。</p>	<p>ホームは木造の平屋造りで、ホールは余裕ある広さで明るく、清掃や整理整頓が徹底されている。居室入口には各利用者の似顔絵が貼られて和やかな雰囲気が醸し出されており、騒音や異臭もなく、空調・採光等に配慮し、季節感のある花や利用者の作品等も飾られて、居心地良く過ごせる環境となっている。また、テーブルセットやソファ、テレビ等が、利用者の動線や利便性に配慮して設置され、利用者は好みの場所で気持ちよく過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>少人数で座れるソファを設置するなどして利用者同士の空間作りを工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた寝具やタンス等を持参して頂いて落ち着いて過ごせる環境作りに努めている。</p>	<p>居室はフローリングの床に腰高窓の仕様で明るく余裕ある広さが確保され、清掃、整頓等を利用者の意向を確認しながら支援している。使い慣れた寝具や小タンス、家族写真等を自由に持ち込んで、利用者が自宅と同様に落ち着いて居心地良く過ごせる部屋となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>便所、お風呂の表示を行い入居者様が迷わずに行けるように工夫している。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない